

燈籠種類

作上鐵物二百六物 工五十七人略中

懸燈料肱金一具 石坐 工一人略中

以前起天平寶字五年十二月十四日、盡六年八月五日、請用雜物并作物、及散役等如件以解、

天平寶字六年閏十二月廿九日案主下

別當主典安都宿禰

〔守貞漫稿六生業薄板製ノ燈籠賣

夏月黃昏賣之、薄ク紙ノ如ク削リ成ル杉板ヲ薄板ト云、以之小燈籠ヲ造リ、裏ニ赤紙ヲ張リ、コレ

ヲ火袋ニシ、又屋根板ニ竹ヲ曲テ手トシ、小蛤殻ニ油ヲイレ、木綿ヲヨリテコレヲ油中ニ置キ、コ

レニ燈ヲ點ズ、其形種々アリト雖ドモ、下圖略ノ物ヲ專トス、

〔倭訓栞前編十八登略〕とうろう略中 まはり略とうろは燈球也、走馬燈ともいへり、あげ略とうろは天燈

と見えたり、石燈籠あり、金燈籠あり、

〔東大寺要錄七〕一大佛殿納物

金銅燈爐一基在花臺上 大燈爐一基在庭中有鏤

永觀二年五月二日

〔吾妻鏡九〕文治五年八月廿二日己酉申刻著御于泰衡平泉館略中 沈紫檀以下唐木厨子數脚在之、

其内所納者略中 銀造瑠璃灯爐、南廷百各盛金器等也、

〔延喜式六齋院〕三年一請雜物略中

白木燈爐三具

〔兼葭堂雜錄五〕南都春日神社の境内には、古物の燈爐あまた有て、舉てかき枚ふるに暇あらず、就中石

燈籠にしては、祓戸金燈爐には、蟬の燈籠、淺野侯の燈籠など、世人舉て見る處なり、こゝに若宮御

供所の傍に、狩野探幽の寄附せし燈籠一基、又狩野尚信の寄附一基、同所にならびて建たり、